

## 令和4年度第2回緑区支え合いのまち推進協議会議事要旨

**開催日時** 令和4年11月19日（土）午後2時～午後4時

**開催場所** 緑保健福祉センター2階 大会議室

**出席者**

（委員） 秋葉委員、石本委員、大槻委員、岡本委員、鴨委員、木之内委員、久保委員、栗原委員、小林委員、小山委員、迫谷委員、茂田委員、篠原委員、末永委員、園委員、田宮委員、豊田委員、野口委員、野崎委員、馬場委員、廣田委員、福邊委員、松澤委員、茂庭委員、山本委員

（事務局） 長瀬緑区長、柏原緑区副区長兼地域振興課長、村田緑保健福祉センター所長兼高齢障害支援課長、柴崎緑区健康課長、土谷地域づくり支援室長、石毛社会福祉協議会緑区事務所長 他6名

計 37名

### 【次第】

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 題

各団体の取組状況等の共有及び第5期計画への反映検討について（グループワーク）

（1）自己紹介

（2）グループリーダーの選出について

（3）令和3年度取組状況・令和4年度計画等の共有について

（4）第4期計画取組項目の第5期計画への反映検討について

（5）広報委員の選出について

4 その他

5 閉 会

### 【議事要旨】

**※議事要旨は次ページ以降にグループ毎に記載しています。**

**※簡潔にするため、文体は常体で表記しています。**

## 誉田エリア

### 議題（１）自己紹介

#### （２）グループリーダーの選出について

事務局の進行により、自己紹介を行った後、グループリーダーについて、互選で選出を行ったところ、栗原委員から大槻副委員長の推薦があり、大槻副委員長がグループリーダーに選出された。

### 議題（３）令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について

リーダーの進行により、各委員から令和３年度取組状況・令和４年度計画等について発表するとともに意見交換を行った。

#### ■社協地区部会

（山本委員） 誉田地区部会では、取組項目３「障害者（児）が集う場の開設・拡充・情報提供」、取組項目２６「見守り活動の推進」に注力して取組んでいる。

障害の取組については、コロナ禍で実施できておらず、方向性も決まっていない。見守りの取組については、令和４年度から誉田地区部会から平山地区部会が分離独立したことにより、地区部会内の専門委員会が７委員会から５委員会に見直され、見守り活動推進委員会から高齢者福祉委員会に継承されることになった。令和３年度までは７地区活動を実施していたが、平山地区が分離独立したことにより、誉田地区では３地区実施している。

（大槻副委員長） 見守り活動は地区部会が行うのが本来だが、実際には町内自治会が行っている。１軒ずつ訪問できないので、形ばかりの見守りになっているのが現況。見守り活動は町内自治会でも推進していきたい。

#### ■民生委員児童委員協議会

（栗原委員） 民児協では５０６地区と５０７地区で連携し、取組み項目６「地域と学校との交流」に取組んでいる。誉田中学校で地域ふれあいタイムを実施したほか、誉田東小学校ＰＴＡや青少年育成委員会福祉部会と連携し、小学生を対象に人権について講話を行うとともに、ＪＩＮＫＥＮぬいぐるみを誉田小、誉田東小の卒業生に寄贈した。

#### ■あんしんケアセンター

（迫谷委員） あんしんケアセンター誉田では、取組項目３１「ボランティアの確保」に取組んでおり、誉田町２丁目で「きんようカフェ」という認知症カフェの立ち上げを支援した。簡単な体操なども行っている。誉田には集まる場所がないと言われており、駅から遠い誉田町１丁目や高田町、平川町にも集いの場を作ることが課題となっている。

- (大概副委員長) 居場所づくりとして、空き家利用を考えてはどうか。
- (迫谷委員) 居場所づくりは他区でも様々な取組みを実施しているので、参考にしていきたい。
- (事務局) 誉田エリアには、公共施設が誉田公民館しかなく利用しづらいことは承知しており、居場所づくりが課題であることは認識している。

## ■町内自治会連絡協議会

- (大概副委員長) 誉田地区連協では、取組項目31「ボランティアの確保」、取組項目18「防災訓練の充実」、取組項目21「身近な防犯、安全対策」、取組項目26「見守り活動の推進」に取り組んでいる。
- ボランティアに関しては、町内会員や小中学校のPTAも加わり、増えつつある。数年前から学校地域支援の組織が立ち上がり、在学中は生徒の親が協力してくれる体制となっている。防災訓練は緑消防署と連携し、実施している。防犯パトロールは町内会で毎日実施しており、振込詐欺防止等も啓発している。見守り活動は、町内自治会が中心となって実施する必要があると認識しているが、コロナの影響により実施できていない。また、見守りを嫌がる人もいる。

## ■その他意見概要

- (事務局) 集まる場が少ないのが共通課題と感じる。集まる場があると見守りにもつながる。
- (大概副委員長) 回覧板の回覧も見守りにつながるが、それも嫌がる人がいる。
- (迫谷委員) あんしんケアセンターでは、民生委員と協力している。
- (大概副委員長) 民生委員は高齢者の情報を保有しているが、町内自治会は高齢者の情報を保有していないのが問題。
- (山本委員) 自身も民生委員であるが、所属する単位町内自治会の総会に出席している。現状はコロナで書面開催となっている。町内自治会も高齢化が進んでおり、防犯パトロール等も免許がなくてできない等の支障が生じている。見守りについては、自身の地域では60世帯ほどであり、把握できている。

## **議題(4) 第4期計画取組項目の第5期計画への反映検討について**

リーダーの進行により、施設・個別団体グループからの伝達事項について発表したあと、事務局から各項目について説明し、検討を行った。

## ■主な意見概要

- (事務局) 取組項目8「家庭や地域の文化・歴史の伝承と発展」は実績がないが削除で良いか。
- (大概副委員長) 以前実施していた取組はあるが、常時実施できていないので削除が良い。
- (事務局) 取組項目9「子ども会の活性化」、取組項目10「老人クラブの活性化」、取組項目11「町内自治会の活性化」について、統合するのはいかがか。
- (大概副委員長) 自治会の活性化がどのような取組を指すのか分からない。

- (事務局) 取組項目9・10・11は地域活動の活性化として統合させていただく。取組項目12「地域活動の場の確保」は実績がないが削除で良いか。
- (大概副委員長) 取組項目12は地域活動の集まりの場のことを指すのか。
- (事務局) ソフト面ではなくハード面のことで、自治会館等のことを指すと考える。
- (大概副委員長) 項目の内容が分かりづらいが、ハード面のことであれば削除で良い。
- (事務局) 取組項目13「生活環境の整備」は実績がないが削除で良いか。取組内容的に施策の方向性11「身近な防犯・犯罪被害の防止対策」への移行も考えられる。
- (山本委員) 施策の方向性11は緊急時の支援・対応を前提としており、取組項目13は日頃からの整備を前提としているので、異なるのではないかと。
- (大概副委員長) 誉田エリアとしては実績がないため削除で良いのではないかと。
- (事務局) 取組項目14「家庭における意識啓発」、15「地域における意識啓発」については、取組項目18「防災訓練の充実」を実施することで実績があるものと考えられるので、統合するのはいかがかと。
- (大概副委員長) 統合で良いのではないかと。
- (事務局) 取組項目16「災害時避難誘導體制の充実」、17「情報伝達体制の充実」、22「地域諸団体、行政機関との連携」、23「集会所等施設の活用と情報共有」については実績がないが、取組項目19「緊急時の食料、医薬品等の調達、供給体制づくり」と統合するのはいかがかと。防災については、大きく2つにまとめ、取組項目18「防災訓練の充実」と当該項目の2つの項目に統合することになる。
- (山本委員) 31の取組項目を見ると必要な内容が書かれているので、取組項目はそのままにし、実際の取組が複数の取組項目に該当するよう集計すれば良いのでは。
- (事務局) 同じ取組でも地域や団体によって該当させる項目が異なる状況があるため、差異が生じないように分かりやすくまとめたいと考えている。
- (大概副委員長) 実態に即して文言を修正するのであれば、統合で良いのではないかと。
- (事務局) 取組項目20「災害時ボランティア活動の充実」はいかがかと。
- (大概副委員長) 災害時に限らなければ取組項目31「ボランティアの確保」と統合できるのではないかと。
- (事務局) 取組項目24「助け合い活動の推進」、25「外出困難者への支援」は実績がないが削除で良いか。
- (山本委員) おゆみ野地区では庭木の剪定や家屋の補修を町内自治会主体でやっているところがあるが、誉田では組織だった活動はできていない。
- (大概副委員長) 誉田一丁目は実施している。
- (迫谷委員) 生活支援コーディネーターが取組む内容ではあるが、現時点では実施できていないため、今後地域の方と連携して進めていきたい。
- (事務局) 取組項目27「健康づくり支援」は実績がないが、削除で良いか。
- (山本委員) あんしんケアセンターが実施しているのでは。
- (迫谷委員) あんしんケアセンターとして実施している取組はある。
- (事務局) 取組項目27はあんしんケアセンターの実績があるものとして継続とする。
- (迫谷委員) 取組項目28「地域の課題解決に向けた連携」については、あんしんネットワーク会議を開催しているので、あんしんケアセンターの実績をありにしてほしい。
- (事務局) 取組項目29「障害者(児)の家族の支援」は実績がないが、いかがかと。

(大槻副委員長) 障害者の情報収集に制限があり、取組自体できないため、削除が良いのではないか。

(事務局) 取組項目30「自宅療養中の家族がいる家庭への支援」についてはいかがか。

(迫谷委員) あんしんケアセンターで認知症サポーター養成講座を実施しているので、実績ありに変更してほしい。

また、取組項目3「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」も実績ありに変更してほしい。

## ■検討結果

	削除	継続	統合	新規
取組 項目 番号	8、12、13、 24、25、2 9	1、2、3、4、5、 6、7、21、26、 27、28、30	9と10と11 14～19と22と23 (2つ項目に統合) 20と31	なし

### 議題(5) 広報委員の選出について

リーダーの進行により、互選により選出を行ったところ、栗原委員から石本委員の推薦があり、石本委員が広報委員に選出された。

## 椎名エリア

### 議題（１）自己紹介

#### （２）グループリーダーの選出について

事務局の進行により、自己紹介を行った後、グループリーダーについて、互選により選出を行ったところ、秋葉委員から岡本委員長の推薦があり、岡本委員長がグループリーダーに選出された。

### 議題（３）令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について

リーダーの進行により、各委員から令和３年度取組状況・令和４年度計画等について発表するとともに意見交換を行った。

#### ■社協地区部会

（岡本委員長） 椎名地区部会では、重点取組項目として、取組項目１「情報の収集と共有化」で広報誌「椎名だより」を発行しているほか、取組項目６「地域と学校との交流」で椎名小学校４年生を対象に福祉出前講座を実施している。

その他、例年、取組項目２「子ども達の集いの場の提供・情報提供」では漢字指導やしいのみ祭を、取組項目３「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」ではサロン活動を、取組項目４「障害者（児）が集う場の開設・拡充・情報提供」では特別支援学級を支援するヒバリ学級を、取組項目７「地域の行事への積極的参加の呼びかけ」ではあんしんケアセンターが実施する健康相談会への参加呼びかけを実施しているが、令和３・４年度はコロナの影響で中止となっている。

（小山委員） ヒバリ学級への支援や漢字指導は具体的にどのように実施するのか。

（岡本委員長） ヒバリ学級への支援では、特別支援学級の生徒（３名程度）と一緒に授業を受けている。漢字指導では、椎名小学校１～６年生が朝の時間に漢字テストを実施しており、先生が行う採点を手伝っている。

その他の活動では、見守り活動についてコロナの感染防止のため訪問ができていない。

（小山委員） 見守りについては、見守られる人が新聞等を監視されるのを嫌がる人もいるため、実施が困難な状況がある。

（岡本委員長） 見守りについては、電気がついていないか、洗濯物が干してあるか、郵便受けに郵便物がたまっているか等について外から見るだけにしてほしいと言われる。

#### ■町内自治会連絡協議会

（小山委員） 椎名地区連協では、取組項目１２「地域活動の場の確保」の取組として、令和元年の大雨による裏山の崖崩れで利用不可となっていた椎名公民館の復旧について、地区部会や民児協とも連携して市に要望を行い、令和４年１月から

利用が再開された。ただし、耐震性の問題で避難所として使用ができないため、今後公民館の建て替えについて市に要望していく。

## ■民生委員児童委員協議会

(秋葉委員) 民児協503地区では、取組項目6「地域と学校との交流」で、地区部会とも連携し、福祉出前授業や食育支援授業を実施している。福祉出前授業では、小学校の生徒を対象にアイマスク着用による視覚障害体験を、食育支援事業ではライスセンターの見学や太巻き寿司づくり実施している。

## ■その他意見概要

(小山委員) 町内自治会に加入していない方からゴミ出し等の生活支援の要望があった場合にどのように対応すればよいかも問題。

(事務局) 福祉教育は地区部会と民児協が、公民館の復旧については地区連協・地区部会・民児協が連携しているとのことだが、避難所運営委員会では連携されているのか。また、地域運営委員会は設置されているのか。

(小山委員) 避難所運営委員会は町内会長や町内会長OBがやっていることが多いが、連携はしていない。また、地域運営委員会は設置されていない。

## **議題(4) 第4期計画取組項目の第5期計画への反映検討について**

リーダーの進行により、施設・個別団体グループからの伝達事項について発表したあと、事務局から進め方について説明したところ、岡本委員長から委員各自で削除・継続・統合について決めてもらい、報告してもらうほうが良いとの意見があり、約10分委員各自で検討したうえでその結果を報告することとなった。

## ■主な意見概要

(小山委員) 地区連協の実績について、取組項目11「町内自治会の活性化」、取組項目12「地域活動の場の確保」、取組項目18「防災訓練の充実」を実績ありにしてほしい。取組項目9「子ども会の活性化」は難しい。最近はハロウィンなど各家庭が個人的に実施している。取組項目25「外出困難者への支援」や取組項目26「見守り活動の推進」に関しては、町内自治会に加入していない方をどう支援するかが問題。見守りについては、町内自治会に加入していても、個人の上承が得られないため対象者の名簿を作ることが困難。

(事務局) 取組項目18「防災訓練の充実」は避難所運営委員会が実施しているのか。避難行動要支援者名簿についてはどのように使用されているか。

(小山委員) 防災訓練は、避難所運営委員会で実施している。避難行動要支援者名簿は、市連協で話をすると、町内自治会加入者以外も登載されているため、必要ないという話になる。

(秋葉委員) 民児協の実績について、取組項目14「家庭における意識啓発」と取組項目18「防災訓練の充実」についてもありにしてほしい。

なお、避難行動要支援者名簿の活用については、現在市がモデル事業として

対象者の個別支援計画をたてて支援する仕組みづくりを進めている。ケアマネジャーが中心となって支援する仕組みで、近隣住民にも支援の協力を求める形になると思う。

- (小山委員) 仕組みづくりも良いが、受け入れる避難所施設がないことが問題。避難所施設として団地の空き部屋を活用できないか市と検討している。
- (事務局) 具体的な活動を行う上でご議論はあると思うが、本日は第5期計画に何を残すか、何を統合するかについてご検討いただきたいと考えているがいかがか。
- (岡本委員長) 第5期計画の策定の方向性として、類似する取組項目を統合していくという市の考えは分かるが、コロナが収まっていない中、取組が実施できていない状況で検討するのは難しい。
- (事務局) 実際の取組をどのように実施するかではなく、目標とする取組項目をどのような内容にするかについて検討していただきたいと考えており、取組項目が細分化され過ぎている現状があるため、実態に即して統合できれば、実績率の向上にもつながるものと考えます。
- (小山委員) 地区連協として活動しており、地区部会として活動しているわけではないので、この計画の実績の有無について地区連協は関係したくない。
- (事務局) この計画は地区部会の計画ではなく、団体を特定していない地域の計画であるため、ご理解ご協力をお願いしたい。
- (秋葉委員) 施策の方向性は変更できるのか。取組項目14「家庭における意識啓発」と取組項目15「地域における意識啓発」について、類似する取組のため統合するという考えで良いか。
- (事務局) 施策の方向性は、具体的な取組みの項目に応じて、変更可能である。統合の考え方についてはお考えのとおりである。
- (岡本委員長) 要は取組項目を少なくしたいということか。
- (事務局) 細分化され過ぎている項目を分かりやすくまとめたいという趣旨である。
- (廣田委員) 団体が実績をどの取組項目に該当するか迷わないようにしたいという趣旨でよいか。
- (事務局) おっしゃるとおりである。
- (小山委員) この計画は話し合いしかない。お金がない中で実績を増やせと言われても厳しい。
- (事務局) 実績を増やせというわけではなく、取組が細分化され過ぎていて、実績が反映されていないという状況があるため、実態に合わせて取組み項目を分かりやすくまとめたいという趣旨である。
- (岡本委員長) それは行政の考えであって、我々には関係ない。
- (事務局) 各グループで検討した結果として全て継続ということであれば、そのまま項目は残ることになる。本日は椎名エリアとして検討していただきたい。
- (岡本委員長) これまで行政は、実施していない取組を実施するよう言ってきたにも関わらず、取組を減らせというのはおかしい。
- (事務局) 項目を統合するだけであり、ひとつの項目に複数の取組が含まれるため、取組の数は変わらない。
- (岡本委員長) そういう考えであれば、2つあるところを1つにまとめれば良いではないか。形式的な話ではないか。
- (事務局) 同じ活動でも各地域、各団体が該当させる項目が異なる状況であり、適切ではないため、各団体が同じ項目に該当させることができるよう、分かりやすく

項目をまとめたいという趣旨である。椎名エリアでの検討結果をひとまずまとめたいがいかがか。

- (小山委員) 統合してほしいのであれば、事務局として案を提示してほしい。
- (事務局) 次回、各グループの検討結果を集約したものを提示するとともに、検討結果に基づいた事務局案を提示させていただく予定である。椎名エリアとしては、全項目継続とし、次回に改めて検討するということが良いか。
- (秋葉委員) 取組項目9「子ども会の活性化」と取組項目10「老人クラブの活性化」を地域団体の活性化としてまとめると他の団体が入ってきた時に実績に含められるので、統合してはどうか。
- (岡本委員長) この計画を策定した際に各団体の意見があって項目を決めているので、そう簡単にまとめるといふわけにはいかない。取組項目25「外出困難者の支援」や取組項目29「障害者(児)の家族の支援」は取組みとして削除できると思うが、社協としてはそのような取組みの実施を考えないといけない。
- (事務局) 取組項目29については、精神障害者南家族会に配慮した取組項目だが、同会も取組項目29に実績ありにしておらず、取組項目4「障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供」に実績をあげている。
- (岡本委員長) どの項目を統合してよいか分からない。
- (事務局) 次回事務局案を提示するので、改めてご検討いただきたい。

## ■検討結果

全項目 保留

## 議題(5) 広報委員の選出について

リーダーの進行により、互選で選出を行ったところ、秋葉委員から立候補があり、秋葉委員が広報委員に選出された。

## 土気エリア

### 議題（１）自己紹介

#### （２）グループリーダーの選出について

事務局の進行により、自己紹介を行った後、グループリーダーについて、互選で選出を行ったところ、木之内委員から立候補があり、木之内委員がグループリーダーに選出された。

### 議題（３）令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について

リーダーの進行により、各委員から令和３年度取組状況・令和４年度計画等について発表するとともに意見交換を行った。

#### ■社協地区部会

（茂田委員） 土気地区部会では、取組項目３「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組に注力して取組んでいる。ふれあい食事は、令和３年度に実施できていないが、令和４年１２月から、月１～２回の再開を予定している。いきいきサロンは、マスク着用・歌禁止等、感染防止に努めながら実施している。屋外活動の散歩クラブは、感染防止に配慮しつつ積極的に活動している。取組項目１「情報の収集共有化」では、広報誌「ふくし」を発行し、自治会の加入者に回覧しているが、未加入者への配付が課題。

#### ■民生委員児童委員協議会

（木之内委員） 民児協は土気エリアに４地区あり、コロナ禍でも各地区で定例会を実施している。また、民児協では各地区とも社協の活動（見守り活動等）に協力している。５０９地区民児協では５つの項目で新規の取組の実施を予定しており、具体的には、高齢者の高血圧者比率の低減活動、避難行動要支援者へのサポーター作り、分野別の行政サービスの提供、地元デビューしていない高齢男性の居場所作り、出産を控えた母親、新生児を持つ親との関係作りに取り組んでいきたい。

#### ■あんしんケアセンター

（福邊委員） あんしんケアセンター土気では、取組項目３０「自宅療養中の家族がいる家庭への支援」で、認知症の方を地域で見守る体制を構築するため、認知症サポーター養成講座や認知症ＳＯＳ声掛け訓練を実施しているが、令和３年度はコロナ禍で実施できなかった。令和４年度は越智中学校で認知症ジュニアサポーター養成講座の実施を予定していたが、コロナによる学級閉鎖で中止となり、今後土気小学校での実施を予定している。また、第一生命を対象に認知症サポーター養成講座を実施した。今後、オンラインや少人数での講座実施、広報誌

やリーフレットの配付等による認知症の普及が課題。

## ■町内自治会連絡協議会

(野崎委員) 土気地区連協では、取組項目24「助け合い活動の推進」に注力して取り組んでおり、防犯パトロール隊は土気地区に20団体登録があり巡回を実施している。自主防災組織は46自治会中37団体組織され活動しており、環境美化活動は46自治会中40名の自治推進員が配置され、ゴミ集積所の管理、不法投棄物の回収や禁止看板設置等を行っている。

## ■その他意見概要

(木之内委員) この資料に掲載されていないが実際には実施している取組も多くあると思う。民児協では、資料に掲載していないが、見守り活動は実施している。

(福邊委員) あんしんケアセンターは総合相談窓口なので、高齢者の相談を多く受ける。509地区の高齢男性の地域デビューについて聞きたい。

(木之内委員) イギリスではいたるところに私と話しませんかという看板を設置したベンチがあるらしい。例えば女性が井戸端会議をするような、気軽に集まれるような場所が作れると良い。

情報掲示板のようなものがあると気軽に情報発信・収集が行える。現状はそのようなものがないので、広報誌等を通じてお知らせしている。

行政制度(緊急通報システム・どこ知る伝言板等)の周知やあんしんカードの活用につなげたい。

土気地区で、独居高齢者の孤独死が増加している。緊急時は発見されやすいよう玄関前にいることや笛を携帯すること等を勧めたい。あんしんカードは携帯用とマグネット製のものがある。

## 議題(4) 第4期計画取組項目の第5期計画への反映検討について

リーダーの進行により、施設・個別団体グループからの伝達事項について発表したあと、事務局から各項目について説明し、検討を行った。

## ■主な意見概要

(木之内委員) 取組項目2「子ども達の集いの場の提供」は、509地区で実績があるが、今後実施予定がないため、削除が良い

(事務局) 取組項目9「子ども会の活性化」、取組項目10「老人クラブの活性化」、取組項目11「町内自治会の活性化」について、統合するのはいかがか。

(木之内委員) 取組項目9、10は統合で良いが、取組項目11については、町内自治会は全ての活動のベースであるため、単独のほうが良い。

(小林委員) 子ども会や老人クラブはどの単位のことを指すのか。

(野崎委員) 子ども会は、町内自治会単位のほか、隣り合った自治会にまたがって設置されている地区が以前はあった。

(事務局) 取組項目12「地域活動の場の確保」はどうか。

- (木之内委員) 取組項目 1 2 に関しての要望だが、町内自治会館を開放してもらえると助かる。
- (野崎委員) 管理者が常駐していないため、自治会が使用する場合でも事前予約したうえで使用している。
- (木之内委員) フリーにしすぎると会館が荒れてしまう恐れがあることは理解する。新たな活動をする際に活動場所の確保は必要。
- (事務局) 取組項目 1 4「家庭における意識啓発」、1 5「地域における意識啓発」、1 6「災害時避難誘導體制の充実」、1 7「情報伝達体制の充実」、1 8「防災訓練の充実」まで、項目が細分化され過ぎていて各エリアとも適切に実績が反映されていない状況となっている。文言修正したうえで統合してはどうか。
- (鴨 委員) 土気エリアは山の崩落等の危険性もあるためもっと具体的に考えるべきでは。
- (事務局) 削除するわけではなく、防災の取組が細分化され過ぎているため統合したいという趣旨である。
- (小林委員) 防災訓練を実施したことをもって、1 4～1 7の取組みを実施したことになっている地区があるが、各地区で同じように実績として反映されるよう、分かりやすく取組にまとめるということか。
- (事務局) おっしゃるとおりである。
- (鴨 委員) 土気エリアでは災害時における要支援者の避難支援はどのようになっているのか。
- (木之内委員) 民生委員や町内自治会等で災害時要支援者名簿の保有をしているが、活用ができていない状況がある。今年度、市がモデル事業として、要支援者の個別支援計画の策定を進めている。項目は統合するものとし、具体的な取組内容の検討を進めていかなければならない。
- (事務局) 取組項目 2 2「地域諸団体、行政機関との連携」について、くちなししか実績がないが、他と統合するのはいかがか。
- (小林委員) 緑区ふるさとまつりで福祉啓発活動を行ったものを実績としてあげている。取組項目 7「地域の行事への積極的参加の呼びかけ」に統合でも構わない。
- (事務局) 取組項目 2 3「集会所等施設の活用と情報共有」について、取組項目 1 2「地域活動の場の確保」と統合するのはいかがか。
- (木之内委員) 防災の取組なので、取組項目 1 4～1 9と統合してはどうか。
- (事務局) 取組項目 2 9「障害者（児）の家族の支援」について、取組項目 4「障害者（児）が集う場の開設・拡充・情報提供」と統合するのはいかがか。
- (鴨 委員) 統合するのであれば、「家族」という文言を明記してほしい。
- (事務局) 新規項目の出産を控えた母親、新生児を持つ親との関係づくりについて、取組項目 2 6「見守り活動の推進」と統合するのはいかがか。
- (木之内委員) 統合できる項目があれば統合で構わない。

## ■ 検討結果

	削除	継続	統合	新規
取組 項目 番号	2、8	1、3、5、6、1 1 ～1 3、2 0、2 1、 2 4～2 8、3 0、3 1	4と2 9（「家族」を明記） 9と1 0、7と2 2 1 4～1 9と2 3 2 6と新規項目	なし

## **議題（５）広報委員の選出について**

リーダーの進行により、互選で選出を行ったところ、木之内委員から茂田委員の推薦があり、茂田委員が広報委員に選出された。

## おゆみ野エリア

### 議題（１）自己紹介

#### （２）グループリーダーの選出について

事務局の進行により、自己紹介を行った後、グループリーダーについて、互選により選出を行ったところ、久保委員から篠原委員の推薦があり、篠原委員がグループリーダーに選出された。

### 議題（３）令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について

リーダーの進行により、各委員から令和３年度取組状況・令和４年度計画等について発表するとともに意見交換を行った。

#### ■社協地区部会

（野口委員） おゆみ野地区部会では、高齢、障害、こども等を対象にした各委員会において、令和３年度の実績を踏まえて、令和４年度の年次計画を作り、活動を実施している。近年は、コロナ対策を講じながら、皆さんが参加しやすい地域づくりのために活動している。

（事務局） コロナ禍で地域がつながるのは非常に難しいが、令和４年１１月に緑区ふるさと祭りを開催したところ、とても盛況で、地域の方々も日常生活の中で地域との繋がりを大切にしていると感じた。何も手を差し伸べないでいると引きこもりなど地域の様々な問題に発展してしまうので、支え合いの環境を作るために、積極的に働きかけていかなければならない。この計画の目的は地域の支え合い、自助共助を強くしていくことであり、コロナのような大きな社会不安がある中では、地域の支え合いがより一層大切であると感じる。

（篠原委員） おゆみ野エリアは良くも悪くも距離が近いという状況がある。

（野口委員） 情報の共有化はできている。地区部会では高齢者を対象に「さわやか散歩」を実施しており、もっと多くの方が参加しやすい状況になるよう、PRをどのようにするかが課題である。

#### ■あんしんケアセンター

（園委員） あんしんケアセンター鎌取では、総合相談支援業務に重点的に取り組んでおり、コロナ禍で閉じこもりがちになり、身体機能が低下した高齢者からの相談について、適切な支援につなげている。以前は実施していた講演会や地域活動への参加等については、コロナの影響により行えていない。近年、相談内容について、８０５０問題や認知症、精神疾患等複合的になっている。あんしんケアセンターのことを知らない方もいるので、広く周知していきたい。

（篠原委員） 若い世代や関わりがない方は、あんしんケアセンターのことを知らないのではないか。今の自治会長は若い世代が多い。

- (久保委員) 民生委員として高齢者にあんしんケアセンターのチラシを配るとき、もっと気軽に相談できるような内容だと良い。
- (園委員) なんでも相談できるという内容だと、適切な支援につなげないことがあるため難しい。

### ■町内自治会連絡協議会

- (篠原委員) おゆみ野地区連協では、子どもの安全を守るためおゆみ野遊歩道への防犯カメラについて千葉南警察に要望し、設置した。また、おゆみ野地区の各避難所運営委員会について、10箇所の避難所で広域の委員会を結成し、今朝結成式を行った。おゆみ野地区連協には63の自治会があり、若い方や女性の方が増えていく中で、色々な意見や考え方があり、従来とのギャップが生じている。緑区のふるさと祭りに参加して、とにかくやるのが大切だと感じ、来年の夏祭りは開催する予定で話を進めている。

### ■民生委員児童委員協議会

- (久保委員) おゆみ野地区の民児協は、502・508・511の3地区あり、各地区共通しているのは、災害時に一人も見逃さない運動の推進として、高齢者実態調査や災害時要支援者名簿に基づく訪問、歳末慰問金などの配布を通じて高齢者や子どもたちの見守りをしている。また、朝の声掛けや子どもと一緒に学校に登校するほか、先生方と連携をとっている。なお、民生委員はほとんど社協地区部会に所属し、地区部会の活動に協力しているほか、自治会との交流会や避難所運営委員会に参加する等、地域との連携に努めており、顔の見える民生委員ということ大切に活動している。

## 議題(4) 第4期計画取組項目の第5期計画への反映検討について

リーダーの進行により、施設・個別団体グループからの伝達事項について発表したあと、事務局から各項目について説明し、検討を行った。

### ■主な意見概要

- (事務局) 取組項目6「地域と学校との交流」は各団体の実績等がないが削除で良いか。取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供」と内容が重なるところがあるため、統合するのはいかがか。
- (篠原委員) 取組項目2と統合で良い。
- (園委員) 取組項目30「自宅療養中の家族がいる家庭への支援」としてあんしんケアセンターでジュニア認知症サポーター養成講座を実施している。内容的に取組項目2に統合できるのではないか。
- (事務局) 取組項目2と6に加えて30も統合してはどうかとの意見があるが、統合で良いか。(一同同意)
- (事務局) 取組項目9「子ども会の活性化」、取組項目10「老人クラブの活性化」、取組項目11「町内自治会の活性化」について、地域活動の活性化として統合

するのはいかがか。

(茂庭委員) 老人クラブは町内自治会の中に設置されると良いと考えているが、統合となると表現が難しい。子どもと合同で活動することはある。

(事務局) 安易に統合すると活動内容が合わなくなるかもしれないので、取組項目11「町内自治会の活性化」は継続し、取組項目9・10は、世代間交流の活性化として統合するのはいかがか。(一同同意)

(事務局) 取組項目13「生活環境の整備」は実績等ないが、削除で良いか。  
内容的に、取組項目21「身近な防犯、安全対策」に統合する案も考えられる。

(野口委員) 取組項目13は、防犯の取組ではないのではないかと。

(園委員) 実際に活動することを想定すると別の方が良い。

(事務局) 取組項目13は継続とさせていただく。

取組項目14「家庭における意識啓発」は継続で良いか。

(野口委員) 取組項目14は、取組項目15「地域における意識啓発」と統合できるのではないかと。

(事務局) 取組項目14、15は統合で良いか。(一同同意)

(事務局) 取組項目20「災害時ボランティア活動の充実」は実績ないが、削除で良いか。

(園委員) 災害時に限定しなければ、他の項目と統合できるのではないかと。

(事務局) 他の項目と統合すると、災害時が弱まってしまうことは考えられる。

(野口委員) 取組項目20は継続で良いのではないかと。

(事務局) 取組項目20は継続とさせていただく。

(事務局) 取組項目22「地域諸団体、行政機関との連携」、取組項目23「集会所等施設の活用と情報共有」は実績がないが、有事のことを考えると継続した方が良く考えるが、継続で良いか。(一同同意)

(事務局) 取組項目25「外出困難者への支援」は継続で良いか。

(久保委員) 取組項目25は、取組項目24「助け合い活動の推進」の取組のひとつなので、統合してはどうか。

(事務局) 取組項目24と25は統合させていただく。

(事務局) 新規の取組項目として、認知症との向き合い方等に関する取組があるが、既存の取組と統合できるか。

(野口委員) 認知症の問題は大きいので、文言は残してほしい。

(園委員) 先ほど、認知症に係る取組項目30を取組項目2に統合してはどうかと意見を述べたが、取組項目30は統合せずに、継続としてほしい。

(事務局) 取組項目30は継続とし、認知症との向き合い方等については、新規の取組を追加させていただく。

## ■検討結果

	削除	継続	統合	新規
取組項目番号	1	3、4、5、7、8、 11、12、13 16～23、 26～31	2と6 9と10 14と15 24と25	1件追加

## **議題（５）広報委員の選出について**

リーダーの進行により、互選により選出を行ったところ、久保委員から田宮副委員長の推薦があり、田宮副委員長が広報委員に選出された。

## 平山エリア

### **議題（１）自己紹介**

#### **（２）グループリーダーの選出について**

事務局の進行により、自己紹介を行った後、グループリーダーについて、互選により選出を行ったところ、松澤委員から豊田委員の推薦があり、グループリーダーに選出された。

### **議題（３）令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について**

リーダーの進行により、各委員から令和３年度取組状況・令和４年度計画等について発表するとともに意見交換を行った。

#### **■社協地区部会**

（松澤委員） 平山地区部会は、今年度から設立したが、コロナの影響で設立総会も書面での開催となり、活動があまり出来ていない。委員が集まって話し合う機会を持ちたい。地区部会の活動としては、広報紙を発行し、子育てサロンを開催している。高齢者の集まりとしては鎌取団地のサロンが再開している。新しくできた町内自治会には子育て世代が多く、地区部会の活動にどのように参加してもらうかが課題と考えている。

#### **■町内自治会連絡協議会**

（豊田委員） 平山地区連協では、学校からの情報は頻繁にきて共有している。連協の会議も定期的に行っている。防犯の取組として、月４回９町内自治会の防犯パトロールを実施しているが新しい町内自治会からの参加率が低く、活動日の人員の確保に苦慮している。町内自治会の活性化の一環として道路余剰地に花壇を作っており、シニアクラブの方が日々手入れを行っている。

#### **■社会福祉協議会（生活支援コーディネーター）**

（馬場委員） 生活支援コーディネーターは、地域の活動や生活支援サービスの情報を収集している。コロナ禍で行動制限のある中、活動の内容を見直したり、休止せざるを得ない状況であり、他の活動団体の情報を共有して参考にさせていただいたり、出張講座などを紹介しながら活動活性化の支援を行ってきた。民間企業が実施している出前講座の情報も紹介しており、今年度はヤックスのお薬研修会やフレイル測定会を実施した。

## 議題（４）第４期計画取組項目の第５期計画への反映検討について

リーダーの進行により、施設・個別団体グループからの伝達事項について発表したあと、事務局から各項目について説明し、検討を行った。

### ■主な意見概要

- (末永委員) ワーナーホームの取組の中には、取組項目１「情報の収集と共有化」にも該当するものがあるが資料４で実績ありとされていない。この項目には該当しないということか。
- (事務局) 事前に提出いただいた令和３年度の取組状況及び令和４年度の計画に基づいて資料４を作成しており、取組の内容から判断して実績ありとしていない。他の団体でも実際の活動が資料４に反映されていないことがあると思うが、資料４に実績ありとされていなくても、この取組は必要だから継続するというような協議をしていければと考えている。
- (事務局) 取組項目８「家庭や地域の文化・歴史の伝承と発展」は、取組項目７「地域の行事への積極的参加の呼びかけ」の取組と同じ内容が記載されているので、統合するのはいかがか。
- (豊田委員) 統合で良い。
- (事務局) 取組項目９「子ども会の活性化」、１０「老人クラブの活性化」は実績がないが、いかがか。
- (末永委員) 緑区老人クラブ連合会では活動はしているが年々参加者が減少し、縮小傾向にあることが課題という報告があった。
- (豊田委員) 子ども会がないところもある。
- (事務局) 地域活動の活性化は必要だと思うので、項目を削除するのではなく、取組項目９、１０、１１を統合するのはいかがか。
- (豊田委員) 地域団体の活性化という大枠に文言修正して良い。
- (事務局) 取組項目１４「家庭における意識啓発」、１５「地域における意識啓発」を統合するのはいかがか。
- (豊田委員) 統合で良い。
- (事務局) 取組項目１６「災害時避難誘導體制の充実」、１７「情報伝達体制の充実」は継続で良いか。
- (豊田委員) 情報伝達と避難誘導は統合した方が良いのではないか。
- (事務局) 取組項目１６と１７は統合させていただく。  
取組項目１８「防災訓練の充実」、１９「緊急時の食料、医薬品等の調達、供給体制づくり」を統合するのはいかがか。
- (豊田委員) 統合で良い。

### ■検討結果

	削除	継続	統合	新規
取組項目番号	なし	１～６、１２、１３、 ２０～３１	７と８、９～１１ １４と１５、１６と１７ １８と１９	なし

## **議題（５）広報委員の選出について**

事務局から、当日欠席の笹塚委員から広報委員を引き受けてもよいとの話を伺っている旨報告したところ、豊田委員から笹塚委員にお願いしたいとの発言があり、笹塚委員が広報委員に選出された。

## 施設・個別団体

### 議題（１）自己紹介

事務局の進行により、各委員から自己紹介を行った

### 議題（３）令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について

事務局の進行により、各委員から令和３年度取組状況・令和４年度計画等について発表するとともに意見交換を行った

- (茂庭委員) 老人クラブでは、取組項目１０「老人クラブの活性化」として、毎年年次計画をたてて活動しているが、コロナの関係で活動が制限されていることもあり、年々会員、参加者が減少傾向にある。５年前と比べると、会員数は約５５０人から３７６人に、クラブ数は１４クラブから９クラブに減少している。対象は６０歳以上だが、６０歳未満でも会員にはなれる。
- (石本委員) ときわ園では、取組項目６「地域と学校との交流」の取組として、公民館と施設をつなぎ、ボランティアと入所者のオンラインによる交流をしており、令和３年度は土気公民館と生涯学習センターと施設の３箇所、中学生と入所者とのオンラインによる交流を図ることができた。
- (末永委員) ワーナーホームは、下総精神医療センターの目の前に位置しており、精神障害者支援を中心に活動しており、精神障害者の地域移行の支援が課題である。精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業を千葉市から受託しており、公民館講座や精神障害者の普及啓発活動等を行っている。地域全体で支援する体制を整備するため、日常的に顔の見える関係をいかに構築していくかが課題である。
- (小林委員) くちなしは、障害を持った方を対象に福祉サービスを実施している事業所である。地域の方に障害を持った方への関心を広める取組を実施している。障害を持った当事者や関係者でないと、障害者と接する機会が少ないため、その機会を増やそうという取組を実施している。コロナの影響で、施設利用者を外に連れて行く、イベントに参加することができていない。４年ぶりに開催された緑区ふるさとまつりでボッチャ体験を実施したところ、３１２名の参加があり、啓発活動を行うことができた。取組項目６「地域と学校との交流」として、地域新聞社との連携で冊子を発行しており、県内の中学校に授業で伺い、福祉の仕事を紹介するワークショップを実施している。今後、緑区の学校でも実施したい。
- (廣田委員) 千葉市身体障害者連合会は、視覚、聴覚、肢体、内部障害等の障害を持っている方のうち、施設入所せずに地域で生活している個人が加入している団体で、障害の部位や程度も様々な方がいる中で種々の行事を行っている。近年は、持病を持っている方も多く、コロナの影響で活動が出来ていない。高齢の方も多

く、インターネット環境に慣れていない方が多いため、リモートでの行事の開催も困難であり、外に向かってどのように発信するかが課題。

なお、千葉市教育委員会と連携し、福祉講話を実施しており、小学校に障害当事者が伺い、生活の話や点字体験、歩行体験等を行い、生徒と交流している。令和3年度は27校実施した。また、一昨年、会のホームページが開設され、周知等を行っている。

(鴨 委員) 千葉市精神障害者南地域家族会は、毎月例会を開催し、家族が必要とするテーマを毎回選んで話し合いをしている。また、年2回会報を発行しているほか、講演会を開催し、参加者と一緒に精神障害者家族の課題について考えている。主な課題は、精神障害が軽度の方は就労支援、重度の方は社会生活へのリハビリ支援であり、精神疾患は緩解することはあるが、治癒はないため、いかに疾患と付き合いながらリハビリするかが課題。会員が高齢化しているため、家族会の活動も少なくなっており、統合失調症罹患者の5%しか家族会に加入していない状況があるため、いかに裾野を広げるかが課題。県内には46の家族会があるが、今年そのうち2つが運営できなくなった。自身も高齢になっているため、若い方の活躍を期待したいが難しい。

(田宮委員) おゆみ野女性の会は、コロナの影響で3年ほど活動が出来ていないため、団体関わっている活動の他、自治会やどこにも所属していない団体にも意見を聴取し、取組をまとめた。課題としては、コロナ禍でも実施できる新しい活動を考えていかなければならない。

また、意見を述べる場がないためお伝えするが、自身が運営している医療機関において、患者と医療従事者を守るため、発熱外来を実施していない状況があるが、地域住民が地域の医療機関に安心して受診できるよう、行政がコロナ専門の発熱外来を設置すれば良いと考えている。

## ■意見概要

(鴨 委員) ときわ園でBCP(災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画)の取組として導入しているBOSSシステムについて説明してほしい。

(石本委員) 東京大学生産技術研究所で開発されたクラウド型の防災管理システムで、災害発生時に行政等からの指示を受けなくても、一元的に避難状況等を管理できる。避難訓練等を実施する際、タブレットで進捗管理しながら、指示することが可能。